

県立高等学校教育改革 第二次実施計画 (H21～H25)

平成20年2月
兵庫県教育委員会

県立高等学校教育改革第二次実施計画について

兵庫県教育委員会では、国際化、情報化、少子・高齢化、生涯学習社会の進展等に伴う様々な課題に対応するために、平成12年2月に「県立高等学校教育改革第一次実施計画」を策定し、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを推進してきた。

「第一次実施計画」が平成20年度に最終年度を迎えることから、平成18年度に学識経験者、学校教育関係者、PTA、県議会・経済界・労働界の代表等からなる「県立高等学校長期構想検討委員会」を設置し、「第一次実施計画」の評価・検証を行うとともに、平成21年度以降の方向性について、平成19年3月に報告を受けた。

この報告の中で、「第一次実施計画」は着実に実施されており、各高等学校の特色化を積極的に図ってきていることから、兵庫県における高校教育改革は概ねその成果が上がっているとの評価を得た。

また、平成21年度以降の「第二次実施計画」について、魅力ある学校づくりの推進、県立高等学校の望ましい規模と配置、入学者選抜制度・方法の改善、定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置の各項目について生徒数の動向や地域の実状などを把握しながら、改革を進める必要があるとの提言を受けた。

兵庫県教育委員会では、「第一次実施計画」の評価・検証の結果を踏まえつつ、長期構想検討委員会の報告に基づき「県立高等学校教育改革第二次実施計画」を策定し、高校教育改革を着実に推進することとした。

改革を推進するにあたっては、それぞれの学校はもとより、市町教育委員会やその他の関係機関等との協議・調整が不可欠であり、今後ともその円滑な推進に向けた一層の連携を図りながら、新しい時代にふさわしい兵庫の教育を充実していくことが重要である。

今後とも、各高等学校においてこの実施計画の趣旨を理解し、特色ある学校づくりをさらに推進することはもちろん、教育関係者や保護者・県民の皆様におかれても、実施計画を推進するにあたっての一層のご支援とご協力を賜るようお願いするものである。

目 次

1	計画の趣旨等	1
2	魅力ある学校づくりの推進	
(1)	総合学科の充実	3
(2)	全日制普通科単位制高等学校の設置	4
(3)	新しい専門高校及び特色ある専門学科の設置	5
(4)	各学科の特色化の推進	6
(5)	中学校と高等学校の連携及び中高一貫教育校の設置	8
(6)	大学や地域等との連携	9
(7)	魅力ある教育活動の推進にあたっての視点	10
3	県立高等学校の望ましい規模と配置	11
4	入学者選抜制度・方法の改善	
(1)	複数志願選抜・特色選抜制度の順次導入	13
(2)	入学者選抜方法の改善	14
5	定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置	15
	〔その他の事項〕	16

1 計画の趣旨等

(1) 計画の期間

社会情勢や学習ニーズの変化がますます速くなっていることなどから、計画の期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とした。

(2) 計画の趣旨

この計画は、「県立高等学校長期構想検討委員会」の報告(平成19年3月)に基づき、「第一次実施計画」の基本理念を踏まえ、県立高等学校の教育改革を推進するにあつての改革の方向と推進計画を示したものである。

特に、「第一次実施計画」で推進した新しいタイプの学校の設置や新しい選抜制度の導入などの新たな枠組みやシステムを、より効果のあるものとして定着させるために、現在の取組を検証し、各学校での教育内容の一層の充実を図ることや、今後の生徒数の動向等を考慮しつつ、活力ある教育活動を維持し、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育の充実を図ることなどを推進するものとした。

「第二次実施計画」の4つの柱

「県立高等学校長期構想検討委員会」の報告で示された「第二次実施計画」の方向性を踏まえ、「第二次実施計画」の4つの柱を示す。

1 魅力ある学校づくりを一層推進する

生徒の個性やニーズに対応し、教育内容を充実させ、バランスのとれた人間の育成をめざす教育を展開するとともに、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを進める。

2 今後の生徒数等の状況を見据えた県立高等学校の望ましい規模の確保と配置の適正化を進める

生徒数の動向や市町合併等の社会状況を見極めながら、「第一次実施計画」で示した考え方を基本としながら、高等学校の望ましい規模の確保と配置の適正化を進める。

3 学びたい学校を選択できる入学者選抜制度・方法の改善を図る

生徒がそれぞれの学校の特色や自分の適性・進路希望等に応じて、学びたい学校を選択できる入学者選抜制度・方法の改善を図る。

4 多様な学習ニーズ等に対応した定時制・通信制高校の活性化と望ましい配置を推進する

経済社会情勢の変化や多様な学習ニーズを踏まえて、定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置を推進する。

(3) 生徒数の動向

「第二次実施計画」の策定・実施期間中である平成20年度から平成25年度の国・公立中学校卒業見込み者数は、地域差はあるものの、県全体としては、ほとんど増減がない。

なお、「第一次実施計画」策定時点では、平成11年度から平成20年度の国・公立中学校卒業生数は約13,000人の大きな減少が見込まれていた。

[参考] 県内国・公立中学校卒業(見込み)者数の推移

< 第二次実施計画 (H21~H25) >		< 第一次実施計画 (H12~H20) >	
平成20年度	49,019人(見込み)	平成11年度	62,058人
平成25年度	49,216人(見込み)	平成20年度	49,019人(見込み)
<hr/>		<hr/>	
増 減	197人	増 減	13,039人

2 魅力ある学校づくりの推進

(1) 総合学科の充実

長期構想検討委員会の報告

- ・ 現在の学区数や生徒数からみて妥当な配置状況である
- ・ 多様な生徒に対応した学科としてさらにその教育内容の充実を図ること

【 改革の方向 】

平成19年度までに県下の14学区に設置し、いずれの地域からも総合学科へ通学可能な状況となったことから、県下全体として妥当な配置状況であり、新たに設置はしない。

既設の総合学科については、多様な生徒のニーズに対応した教育内容の充実を一層図るとともに、総合学科の教育実践を他の学科へも活かす取組を推進する。

【 推進計画 】

教育内容の充実を図るため、生徒、保護者、卒業生、教員を対象としたアンケート調査を早期に実施し、現状の把握・分析を行い、地域や生徒の実態に応じた特色ある系列や科目を設置するよう見直しを行う。

総合学科における特色ある教育活動を可能とする多目的ホールの設置を推進する。

総合学科での体験的な取組や進路ガイダンスのノウハウを普通科の取組にも活かすために、学科の枠を超えた合同研究発表会等を実施する。

中学生や保護者に対して、学科の特色や普通科と異なる魅力を理解してもらうようパンフレットやビデオ、インターネットなどの媒体を活用し、広報に努める。

大学関係者に総合学科の内容の周知を図るなど、総合学科での学びを生かした進路の確保を図る。

(2) 全日制普通科単位制高等学校の設置

長期構想検討委員会の報告

- ・ 学校数や生徒数の多い地域において、さらに設置を検討すること

【 改革の方向 】

単位制高等学校では、生徒の多様なニーズへの弾力的な対応が可能なことから、今後は多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、高大連携、高社連携を一層推進し、単位制の特性を活かした教育内容の充実を図る。

学校数が多い地域や今後の生徒数の増加が見込める地域については、既設の学校に加えて、新たに設置する。

【 推進計画 】

各校の取組が、単位制高等学校の趣旨を生かしたものになっているか、その成果と課題を検証し、生徒の多様なニーズに対応した選択科目の設置、ガイダンス機能の充実、地域の教育力を活用した高大連携、高社連携の推進などについて、単位制の特性を活かした教育活動の充実を図る。

学校数や生徒数の増加状況、交通の利便性を考慮し、阪神地域に学校改編により新たに設置する。

(3) 新しい専門高校及び特色ある専門学科の設置

長期構想検討委員会の報告

- ・ 新しい専門高校については、設置の必要性は少ない
- ・ 特色ある専門学科については、コースを専門学科に改編することなどにより設置を検討すること

【 改革の方向 】

専門高校の設置について

総合学科の系列や普通科の類型において、情報や福祉、芸術などの専門的な学びが広がっていることから、新たに設置はしない。

特色ある専門学科について

国や県の研究指定校として専門性の高い学びを実践しているコースや、生徒のニーズがあり、特色ある学びを継続・発展させているコースを専門学科に改編することを推進する。

【 推進計画 】

文部科学省の研究開発学校や県の指定校において、研究成果を生かすために、指定終了後、コースを特色ある専門学科に改編することを推進する。

生徒や地域からのニーズがあり、現在の学びを継続・発展させることができるコースについて、特定の分野に偏らないことや全県的な配置状況も考慮しながら特色ある専門学科への改編を推進する。

既設の特色ある専門学科については、現状の分析及び課題の検証を行い、生徒のニーズに対応した専門科目の設置や専門学科での学びを生かした進路の確保など、より魅力ある学科となるよう教育内容の充実を図る。

職業教育を主とする専門学科

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉に関する学科

特色ある専門学科

職業教育を主とする専門学科を除く専門学科

(例：舞子高校環境防災科、宝塚北高校演劇科、社高校体育科など)

(4) 各学科の特色化の推進

長期構想検討委員会の報告

- ・ 普通科においては、幅広い分野にわたる特色ある類型の設置や、特色ある類型のコースへの改編を検討すること
- ・ 職業教育を主とする専門学科については、地域や生徒のニーズに対応した学科への改編や統合を検討すること

(ア) 普通科

【 改革の方向 】

多様で柔軟な特色ある学校づくりを進めるために、地域や学校及び生徒の実態に応じて特色ある教育課程の編成を行う。

教員をめざすための類型や芸術、郷土研究を学ぶ類型など、幅広い分野にわたる特色ある類型の設置や特色ある類型のコースへの改編を検討する。

【 推進計画 】

地域や生徒のニーズがあり、充実した教育内容の特色ある類型については、その類型を発展させ、新たなコースの設置を検討する。

定員割れの続いているコースや各校の将来構想の中で改編が望ましいコースについては、設置科目の見直しなどさらに魅力ある教育内容の充実を図るか、あるいは、コースを募集停止し、特色ある類型を設置するかを検討する。

従来の理系、文系の類型にとどまらず、地域や学校及び生徒の実態に応じた特色ある類型を設置するとともに、特色選抜の実施拡大を推進する。

(イ) 職業教育を主とする専門学科

【 改革の方向 】

社会や産業構造の変化を踏まえた職業教育を主とする専門学科の方向性を検討する。

全県的な学科の配置バランスを考慮し、地域の事情や生徒のニーズに対応した学科の改編や統合を検討する。

【 推進計画 】

職業教育を主とする専門学科について、経営者協会、商工会、地元産業、行政の代表者などとの意見交換を実施する中で、どのような学びが必要か、どのような人材育成が必要かなど、その方向性を検討する。

社会のニーズや産業構造の変化を踏まえ、将来のスペシャリストの育成をめざして教育内容の専門性を高めるとともに、全県的な配置状況のバランスや生徒のニーズ、進路状況等を考慮し、必要に応じて専門学科の改編や統合を検討する。

「ひょうごの達人」招聘事業（H19～）

農業、商業、水産、家庭に関する学科で学ぶ生徒が、専門家による実践的な技術・技能の指導を受けることにより、生徒の資格取得やものづくりに対する興味・関心を高めるとともに、学習意欲の向上をめざす

「ひょうご匠の技」探求事業（H18～）

全日制工業科を設置する高等学校に高度熟練技能者等を招聘し、ものづくりの技術・技能に興味・関心の高い生徒を育成し、その能力を伸ばし、将来地域産業に貢献できる実践的な工業技術者の育成をめざす

(5) 中学校と高等学校の連携及び中高一貫教育校の設置

長期構想検討委員会の報告

- ・ 中高一貫教育校については、郡部における小規模校において連携型中高一貫教育校への改編を検討すること

【 改革の方向 】

中学校と高等学校の連携について

中学校から高等学校への学校生活の円滑な移行も考慮し、それぞれの教員が互いの教育内容や状況を把握し、その連携を促進することにより中等教育の充実を図る。

中高一貫教育校の設置について

中学校と高等学校の系統的な学習を展開し、将来の地域づくりの担い手を育成するという観点から、すべての学年が1学級となった学校を、連携型中高一貫教育校に改編することを推進する。

【 推進計画 】

近隣の中学校と高等学校が協力した授業研究の実施や総合的な学習の時間の展開、学校行事の開催など、中学校と高等学校の相互の理解や連携を深める取組を推進する。

中・西播磨地域及び丹波地域において、すべての学年が1学級となった学校について、地域の理解と支援を得ながら、その活性化方策について研究するとともに、特色ある学校として連携型中高一貫教育校に改編することを推進する。その際、あわせて連携中学校からの入学者選抜方法の在り方も検討する。

(6) 大学や地域等との連携

長期構想検討委員会の報告

- ・ 現在の高大連携や高社連携をさらに発展させ、高校と大学や社会教育施設等との双方向での連携を検討すること
- ・ 高校生が地域と連携した教育活動をさらに推進していくこと
- ・ すべての学科において、インターンシップなどの就業体験や職業体験をさらに推進していくこと

【 改革の方向 】

多様化した社会に対応するためには、教育活動を高校の中だけで完結させるのではなく、大学や社会教育施設などの教育機関との連携や地域との連携などにより、学習の動機付けや学ぶ意欲を喚起するような幅広い教育活動を推進する。

生徒が自己の将来の在り方・生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるよう、普通科を含めたすべての学科において就業体験や職業体験を推進する。

【 推進計画 】

科目の開講時間帯や日程、連携方法を工夫するなど、高大連携や高社連携をさらに推進する。

生徒が地域社会に貢献できる取組を企画する中で、社会性や自主性など豊かな人間性をはぐくむことや、地域住民が高校生とともに学ぶ場を提供することなど地域に開かれた学校づくりを目的とした事業の充実を図り、地域と連携した教育活動をさらに推進する。

すべての学科において、就業体験や職業体験をさらに推進する。

各高等学校の特色化の推進状況についての理解を深めるため、授業公開や学校行事への参加の呼びかけ、オープンハイスクールの実施などにより、地域への情報提供の充実を図る。

(関連事業は P 1 4 に記載)

(7) 魅力ある教育活動の推進にあたっての視点

長期構想検討委員会の報告

- ・ 特色化を推進する上で教職員一人一人が自らの資質の向上を図るよう教職員の意識改革を進めること
- ・ キャリア教育の視点に立った取組やコミュニケーション能力の育成を図る取組を一層進めること
- ・ 幅広い確かな学力を育成するために、授業改善や評価方法の研究などの取組をさらに進めること

【 改革の方向 】

本県の高次教育改革の理念とその実現のための制度改革を教職員一人一人が理解し、自らの資質向上とスキルアップのための教員研修の充実を図る。

「確かな学力」を育成するために、生徒一人一人の発達の状況や教科・科目の目標の実現状況を的確に把握し、生徒の学ぶ意欲をはぐくむ授業改善や評価方法の研究などの取組をさらに推進する。

生きる力をはぐくむために、また、生徒の学びの充実や定着を図る意味でも、体験活動の充実を図るとともに、望ましい職業観・勤労観を身につけ、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育の視点に立った取組の充実を図る。

【 推進計画 】

教職員人事評価・育成システムの充実や教員免許更新制の導入を踏まえ、初任者、10年経験者、主幹教諭、管理職などの経験年数・職制に応じた教員研修の体系化を図るとともに、教員が高次教育改革の趣旨を理解し、各学校の特色化に取り組むことができるよう県における教員研修の充実を図る。

学力向上をめざすため、授業改善や評価方法の研究、シラバス作成、生徒による授業評価など、各校において、幅広い確かな学力を育成する取組の充実を図る。

新学習指導要領への円滑な移行のため、検討委員会を設置し、新教育課程編成のガイドラインを作成する。

インターンシップやボランティア活動など、生徒の発達段階に応じた体験活動の充実を図るとともに、各校におけるすべての教育活動を通じてキャリア教育の視点に立った取組の充実を図る。

(関連事業はP14に記載)

3 県立高等学校の望ましい規模と配置

長期構想検討委員会の報告

- ・ 高等学校の望ましい規模と配置については、「第一次実施計画」で示した考え方を基本とすること
- ・ 小規模校や分校においては、地域とも連携して活性化方策を十分研究した上で、存続するか、統合又は募集停止するかについて検討すること
- ・ 新しい選抜制度の導入に際して、学校数の少ない学区については、近隣学区との統合を視野に入れながら検討すること
- ・ 学区については、今後その見直しを含めて望ましい在り方を検討すること

【 改革の方向 】

望ましい規模と配置について

ア 高等学校の望ましい規模については、現行の学級編制基準による学級数で、普通科は6～8学級、総合学科は4学級以上、職業教育を主とする学科の単独校は3学級以上とする。なお、生徒数の減少が続く地域における普通科については3学級以上とする。ただし、2学級の普通科や3学級の総合学科などやむを得ず小規模校化した学校については、多様で活力ある教育活動が維持できるよう支援する。

イ 高等学校の配置については、各学科の望ましい規模を踏まえた検討に加えて、通学区域毎に普通科と専門学科との学級数のバランスや専門学科の配置状況を視野に入れ検討する。

1 学年3学級以上の学校の発展的統合について

今後5年間の生徒数の推移は、神戸東部や阪神などの人口が集中している地域において減少は見込まれず、それ以外の地域においては緩やかな減少が続くが、すでに発展的統合は第一次実施計画の中で実施済みであることから、第二次実施計画の期間中は実施しない。

1 学年2学級以下の小規模校及び分校について

ア 小規模校であることを活かした教育を行う特色ある学校として必要な場合には、1学年2学級以下の小規模校として存続する。

イ すべての学年が1学級となった学校は、地域と連携してその活性化方策を研究するとともに、地域の過疎化や中学校の進路指導への影響にも配慮し、連携型中高一貫教育校などの特色ある学校として存続するか、近隣校と統合するかを検討する。

ウ すべての学年が1学級となった学校において、入学者が生徒定員の2分の1に満たない状態が3年間続き、その後も生徒数の増加が見込めないときには、原則として募集を停止する。

エ 現在、設置している分校については、小規模校として存続する必要性、学区内の生徒数の推移や本校及び近隣校と分校との学級数のバランスを考慮した上で、その在り方を検討する。

通学区域について

新しい選抜制度を導入する際に、学校数の少ない学区については、生徒の学校選択の幅を拡大する観点から、近隣学区との統合を検討する。

ただし、生徒の希望状況や市町合併、中学校の進路指導に与える影響なども踏まえつつ、今後全県の通学区域の見直しも含めて望ましい在り方を検討する。

【 推 進 計 画 】

すべての学年が1学級の小規模校において、地域の教育力を活用した特色ある教育活動を展開するとともに、地域に支えられた魅力ある学校づくりを推進するため、地域の支援組織を設置し、本校として存続するための具体的な方策や地域からの支援策などについて検討する。

丹有学区及び淡路学区における4分校については、地域の実情を踏まえた上で本校や近隣校との学級数のバランスを考慮し、小規模校として存続するか本校へ統合するか、その在り方を検討する。

神戸第一・芦屋学区、宝塚学区については、新しい選抜制度を導入した後、地域の実情を勘案しつつ、学区統合について検討する。

全県の通学区域の在り方について検討するために、教育関係者等による検討組織を設置する。

県立高等学校小規模校活性化支援事業（H19～）

全日制高等学校における小規模校の活性化を図るため、小規模校や分校が地域の教育力を活用した特色ある教育活動を展開するとともに、地域に支えられた魅力ある学校づくりを推進する。

4 入学者選抜制度・方法の改善

(1) 複数志願選抜・特色選抜制度の順次導入

長期構想検討委員会の報告

- ・ 複数志願選抜と特色選抜からなる新しい選抜制度については、全県的に導入を推進すること

【 改革の方向 】

新しい選抜制度は、生徒がそれぞれの学校の特色や自分の適性・進路希望等に応じて学びたい学校が選択できるシステムとして成果を上げていることから、引き続きその成果と課題を検証しながら、全県的に導入を推進する。

広い地域に学校が点在している学区へ新しい選抜制度を導入する際には、地域の実情を踏まえた有効な方法を検討する。

新しい選抜制度の導入にあたっては、特色選抜の先行実施についても検討する。

【 推進計画 】

神戸第一・芦屋学区、神戸第二学区、宝塚学区へは、新しい選抜制度を早期に導入する。

丹有学区、西播学区、北但学区、南但学区、淡路学区へ新しい選抜制度を導入する際には、地域の実情を踏まえた有効な方法を検討する。

新しい選抜制度の一層の周知を図るとともに、その検証については、単独選抜の学区に加えて総合選抜の学区に導入することからも引き続き実施する。

複数志願選抜未実施学区においては、全日制普通科高等学校の特色化を進めるとともに、特色選抜を先行して導入することを検討する。

(2) 入学者選抜方法の改善

【 改革の方向 】

各学科の教育内容をさらに充実させるため、それぞれの学科の特徴を活かす選抜方法の成果を検証し、選抜方法の改善も含めてその在り方を検討する。

【 推進計画 】

総合学科における実技検査の成果について、検証を行うとともに、総合学科や全日制普通科単位制高等学校の学力検査における選抜方法の改善について検討する。

特色選抜の先行導入や職業教育を主とする専門学科の募集方法など、普通科や専門学科の選抜方法の改善について検討する。

P 9 「2(6) 大学や地域等との連携」に関連する事業

高校生就業体験事業 - インターンシップ推進プラン - (H17~)

産業の現場などで、学習内容や進路に関連した就業体験(インターンシップ)を実施し、生徒が自己の将来の在り方生き方について考え、目標をもって主体的に進路選択できるようにするとともに、生徒に夢を実現させる力を身につけさせる

高校生地域貢献事業 - トライやる・ワーク - (H17~)

クラス単位でのボランティア活動やグループでの福祉活動等、高校生が地域社会に貢献できる取組を企画し、地域社会への参画意識を高めるとともに、社会性や自主性など豊かな人間性をはぐくむ

オープンハイスクール(H11~)

中学生やその保護者、中学校の教員及び地域住民等に県立高等学校の授業等を公開することによって、高等学校の教育活動について理解を深めるとともに、中学生が自ら学びたい学校を選択する際の一助とし、中学校の進路指導の充実に資する。

高等学校地域オープン講座(H14~)

学校の特色となる科目や地域住民の関心が高い科目について、地域住民に対して、高校生とともに学ぶ場を提供することによって、地域に開かれた学校づくりを推進する

P 10 「2(7) 魅力ある教育活動の推進にあたっての視点」に関連する事業

学力向上ステップアップハイスクール事業(H18~)

授業改善やシラバス及び評価規準の作成、授業評価等の取組を通じて、生徒の学ぶ意欲をはぐくみ、個に応じたきめ細かな指導の充実に資するための実践的方策について研究するとともに、その成果の全県立高等学校への普及を図る

5 定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置

長期構想検討委員会の報告

- ・ 1 学年複数学級の多部制単位制高等学校の設置を、学校数や生徒数の多い地域について、複数の定時制高等学校の募集停止も視野に入れつつ推進すること

【 改革の方向 】

多部制単位制高等学校の設置について

働きながら学ぶ生徒や中途退学者の学び直し、自分のペースで学びたい生徒など幅広いニーズをもつ生徒に対応するため多部制単位制高等学校の設置を推進する。

その際には、地域の状況を考慮し、二部制の設置も検討するとともに、生徒の通学の利便性等を考慮した上で、近隣の定時制高等学校を募集停止し、多部制単位制高等学校に統合することを検討する。

定時制高等学校の配置について

入学者が2年間連続して生徒定員の30%に満たず、将来にわたり増加の見込めない学校については、統合あるいは募集停止の対象として検討する。

また、この基準に該当する学科についても、統合・改編あるいは募集停止を検討する。

通信制高等学校の設置について

通信制高等学校へのニーズは今後も高まると考えられるが、その学習形態から新たに学校を設置はしない。

定時制・通信制高等学校の活性化について

定時制高等学校における3修制や定通併修、通定併修の充実・拡大など、さらなる活性化の推進策を検討する。

【 推進計画 】

多部制単位制高等学校の阪神地域及び播磨地域への設置を検討するとともに、近隣の定時制高等学校の募集停止を検討する。神戸地域については神戸市教育委員会と協議しながら設置を検討する。

定時制高等学校については、学習時間の確保など学校での学習に加えて、高等学校卒業程度認定試験や通信制高等学校など学校外の学習成果の単位認定による3修制や資格取得の充実・拡大など、教育課程の工夫をさらに推進する。

通信制高等学校については、働きながら高校卒業の資格を取得したい生徒だけでなく、ひきこもりや不登校生徒、学業不振生徒などが自分のペースで学習することができるシステムとして、ニーズは今後高くなると予想できることから、定通併修や通定併修など柔軟な履修形態をさらに推進する。

〔その他の事項〕

1 特別支援教育

障害のある生徒の自立や社会参加を支援する観点から、高等学校と特別支援学校に調査研究協力校を指定し、共同学習の取組や施設の活用等について、連携し研究を進める。

また、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等の発達障害がある生徒が、高等学校に入学している現状を踏まえ、障害のある生徒の教育的ニーズを把握し、そのニーズに応じて適切な教育的支援を行うため、教職員に対する理解啓発を進める必要がある。

2 実施計画の周知

県においては高校教育改革（第二次実施計画）に係る説明会を各教育事務所単位で開催し、高等学校教員だけでなく、その他の学校関係者や小中高のPTA、地域住民への周知を図る。

3 市立高等学校との関係

実施計画は県立高等学校を対象として策定するが、市立高等学校の設置者である市教育委員会と将来構想について協議し、県立・市立が相まって改革を推進していく必要がある。また、通学区域、募集定員、入学者選抜については、今後とも協議・調整のうえ、協調していく必要がある。

4 私学との関係

本県の高等学校教育については、これまでから公立高等学校と私立高等学校が公私協調に基づいてその充実を図ってきた。今後も兵庫の教育の質的な向上に向けて特色ある学校づくりを一層推進する中で、互いに切磋琢磨しつつ協調と競争を図っていくことが大切である。

《用語解説》

総合学科

普通科、専門学科に続く第三の学科として、平成6年度に制度化された。体験的で課題解決的な学習を行う原則履修科目「産業社会と人間」等を通して将来の生き方や進路を考えながら、普通科目と専門科目にわたる幅広い選択科目の中から、興味・関心、進路希望等に応じて自分で科目を選択して学ぶことができる。

本県では、平成9年度から神戸甲北高校、香寺高校に設置して以来、平成19年度までに14校に設置している。

単位制高校

学年の区分がなく、入学から卒業までに決められた単位を修得すれば卒業できる高校を単位制高校という。単位制高校は、昭和63年度から定時制・通信制課程に、平成5年度からは全日制にも導入された。

生徒自らの学習計画に基づき、興味・関心、進路希望や学習の習熟の程度に応じて科目を選択し学習できることから、生徒の多様な教育ニーズに応えるとともに、意欲的な学習を促進することができる。総合学科は原則単位制高校である。

本県では、平成6年度から尼崎稲園高校（全日制）、姫路北高校（定時制）に導入して以来、平成19年度までに総合学科を含め26校に導入している。

多部制高校

複数の部を設置し、生徒が仕事や生活の環境などのライフスタイルに合わせ、いずれかの部に所属して学べる学校。本県で現在設置している西宮香風高校と飾磨工業高校では、学習する時間帯として、午前（1部）、午後（2部）、夜間（3部）の3つの部がある。

連携型中高一貫教育校

既存の市町立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施するもの。連携型高等学校における入学者選抜は、連携中学校については調査書及び学力検査以外の資料により行うことができる。

なお、中高一貫教育校には、連携型以外に、一つの学校として一体的に中高一貫教育を行う「中等教育学校」、同一設置者による中学校と高等学校を接続し、中等教育学校に準じて中高一貫教育を行う「併設型中高一貫教育校」がある。

類型

生徒の進路希望や興味・関心等に応じて、系統的に教科・科目が選択できるよう科目の望ましい配列を各学校が設けているもの。普通科では、従来からある文系、理系以外にも、芸術類型、生命科学類型、福祉類型等の特色ある類型を設置している学校もある。

コース

本県において制度化した普通科における類型の一つであり、入学時に定員（40人）を区分し、すべて推薦入試で募集する。現在、国際文化系コース、自然科学系コース、総合人間系コース、健康福祉系コースの4種類のコースがある。

専門学科

高等学校には、普通科、専門学科、総合学科の3つの学科があり、各分野における専門的な技術・知識を身につけるための専門学科については、専門教育に関する教科・科目を25単位以上は履修しなければならないことになっている。

本県には、農業や工業、商業、家庭などを専門的に学ぶ職業を主とする専門学科とそれ以外の体育科や環境防災科などの特色ある専門学科がある。

高大連携、高社連携

多様な生徒の能力・適性、興味関心等に対応するため、また、生徒の多様な学習ニーズに応じた学習の機会を拡大する観点から、大学や社会教育施設での学習の機会を提供したり、関係職員を高校に講師として招聘したりするなど、高校生の知的好奇心を刺激し、自ら学び自ら考える力の育成をねらいとした取組である。

新しい選抜制度

本県において平成15年度から導入した全日制普通科の入学者選抜制度であり、学校の特色や自分の適性・進路希望などに応じて、学びたいことが学べる学校選択を可能とする選抜制度で、複数志願選抜と特色選抜からなる。

- ・ 複数志願選抜

単独選抜と総合選抜の長所を取り入れた選抜制度で、次のような特色がある。

個性や能力に応じて学校を選択し、1校または2校を志願できる。

第1志望を優先するため、第1志望校には一定の加算点を加えて合否判定を行う。

出願時に希望していれば、第1・第2志望校がどちらも不合格の場合でも、総合得点によっては、いずれかの公立高校に合格できる。

- ・ 特色選抜

複数志願選抜と併せて導入した選抜制度。複数志願選抜を実施する学校のうち、特色化の進んだ学校で、その特色に応じて受験生のさまざまな個性や能力を多面的に評価する。各学校において面接を実施する。学校によっては、実技検査、小論文（作文）を実施する場合もある。

キャリア教育

<中央教育審議会答申(平成 11 年 12 月)における定義>

望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

<キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議答申(平成 16 年 1 月)における定義>

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

キャリアとは、個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値観の累積

インターンシップ

生徒が産業の現場などで、自らの学習内容や将来の進路などに関連した就業体験をすること。学習への意欲を高め、職業観・勤労観を育てるとともに、異世代とのコミュニケーション能力を高めるなどの効果が期待できる。

シラバス

各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことで、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されている。

3 修制

定時制高校においても、通常の授業時間前に授業をするなどし、全日制と同様に 3 年間で卒業ができる制度のこと。

定通併修、通定併修

定時制課程や通信制課程において、修業年限を 3 年とする教育課程の編成をはじめ、多様な履修形態を可能とするための制度のこと。

(定通併修) 定時制高校の生徒が、通信制高校において履修した科目を単位認定すること

(通定併修) 通信制高校の生徒が、定時制高校で授業を受け、履修した科目を単位認定すること

■ ■ 地域別参考資料 ■ ■

全 体

【国・公立中学校卒業見込者数】

学 区	平成 20 年度	平成 25 年度	増 減
県 下 全 体	49,019	49,216	197

神 戸 地 域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学 区	平成 20 年度	平成 25 年度	増 減
神戸第一・芦屋	3,238	3,576	338
神 戸 第 二	3,211	3,085	-126
神 戸 第 三	6,314	5,915	-399
計	12,763	12,576	-187

阪 神 地 域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学 区	平成 20 年度	平成 25 年度	増 減
尼 崎	3,390	3,479	89
西 宮	3,237	3,620	383
宝 塚	1,632	1,757	125
伊 丹	3,165	3,516	351
計	11,424	12,372	948

丹 有 地 域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学 区	平成 20 年度	平成 25 年度	増 減
丹 有	2,736	2,392	-344

東播磨地域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学区	平成20年度	平成25年度	増減
明石	2,953	2,873	-80
加印	4,243	4,336	93
北播	2,994	2,866	-128
計	10,190	10,075	-115

西播磨地域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学区	平成20年度	平成25年度	増減
姫路・福崎	5,800	6,003	203
西播	2,652	2,734	82
計	8,452	8,737	285

但馬地域

【国・公立中学校卒業見込者数】

学区	平成20年度	平成25年度	増減
北但	1,265	1,135	-130
南但	742	636	-106
計	2,007	1,771	-236

淡路地域

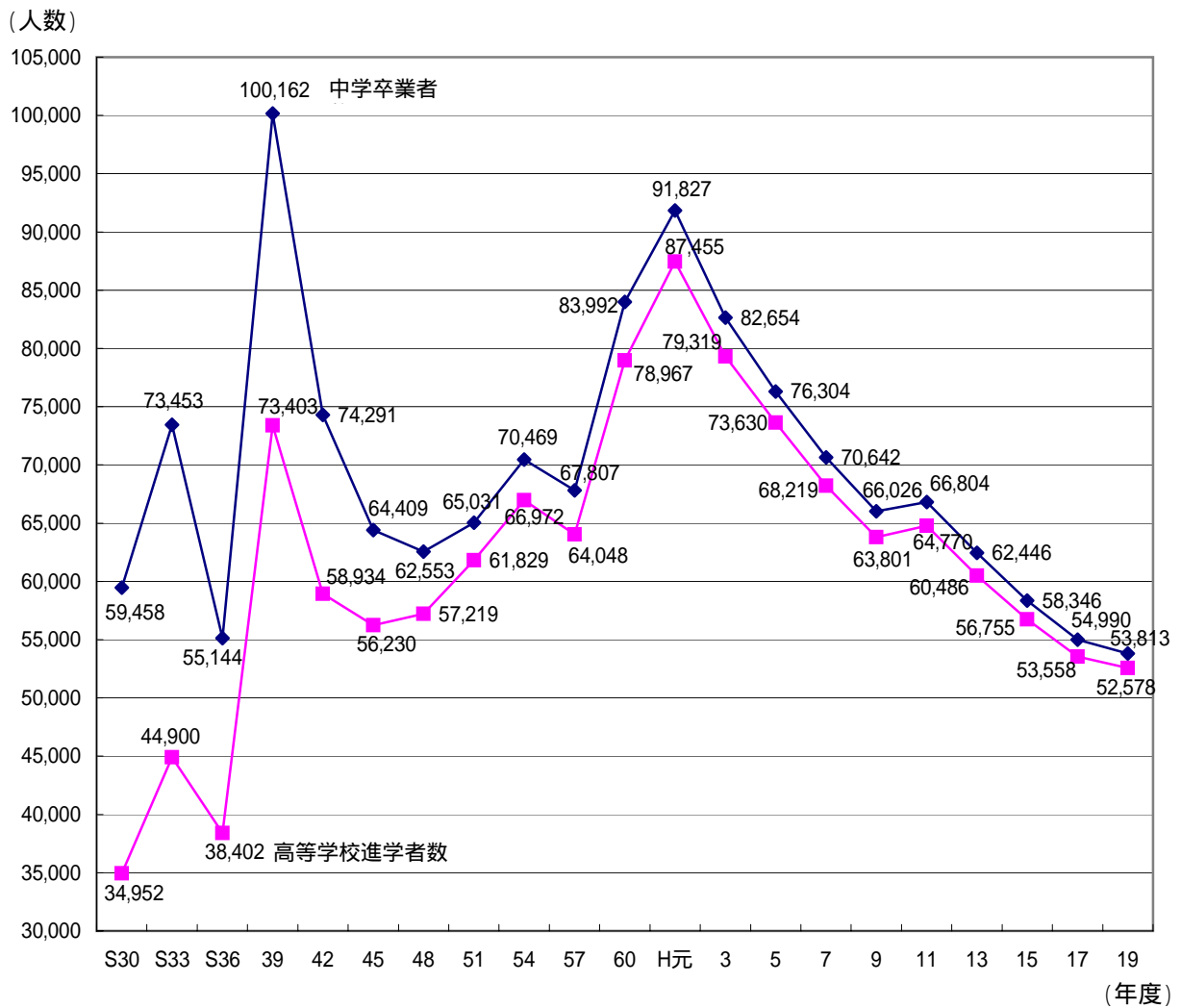
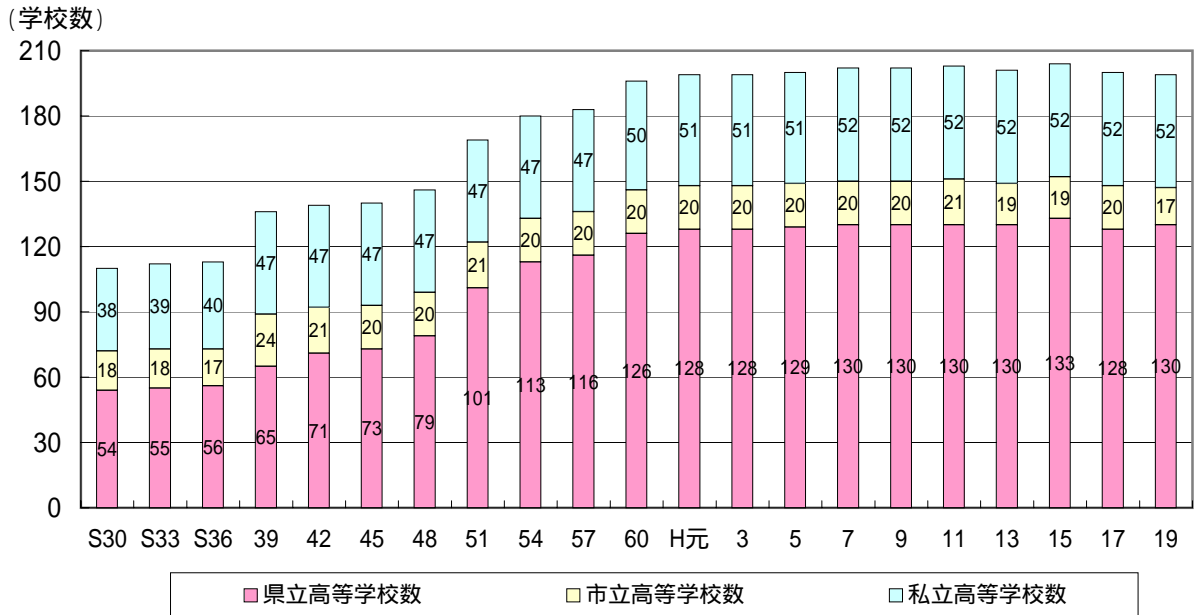
【国・公立中学校卒業見込者数】

学区	平成20年度	平成25年度	増減
淡路	1,447	1,293	-154

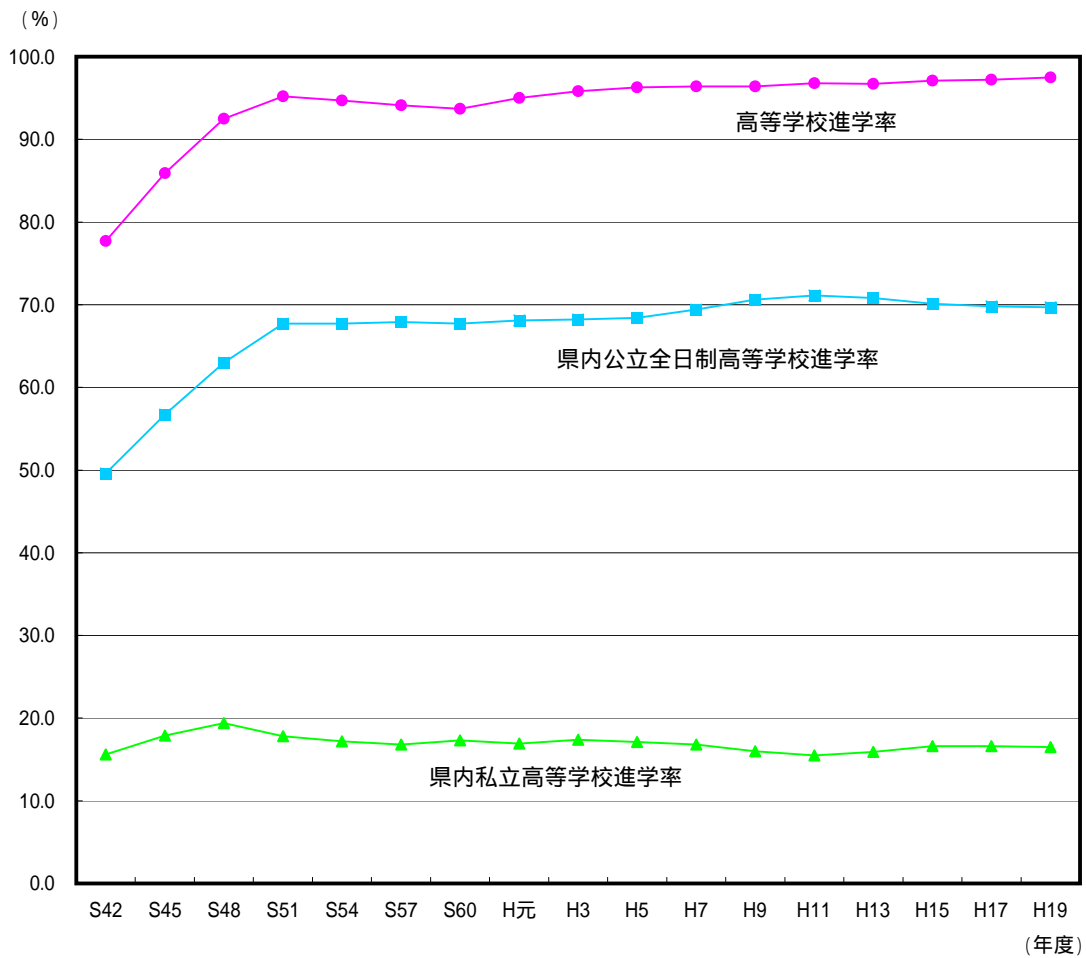
■ ■ 資 料 編 ■ ■

1	全日制高等学校数及び国・公・私立中学校卒業生数、高等学校進学者数の推移・・・	1
2	国・公立中学校卒業生数の進学率	2
3	国・公立中学校卒業（見込）者数の推移	3
4	国・公立中学校平成 19 年 3 月卒業生の進路状況	3
5	公立高等学校の課程・学科別学校数	4
6	県立高等学校中途退学者数	5
7	公立全日制高等学校普通科の通学区域及び選抜制度	6
8	公立全日制高等学校の入学選抜方法	6
9	公立全日制高等学校募集学級数の推移	7
10	公立全日制高等学校の募集学級数による学校規模の推移	8
11	平成 20 年度全日制高等学校の募集学級数による規模別学校一覧	9
12	県立全日制高等学校卒業生の大学科別進路状況	10
13	公立定時制高等学校の生徒数・学校数の推移等	11
14	学区別全日制高等学校教育改革の推進状況	12
15	全日制高等学校における特色ある学校・学科の設置の推移	13

1 全日制高等学校数及び国・公・私立中学校卒業生数、高等学校進学者数の推移

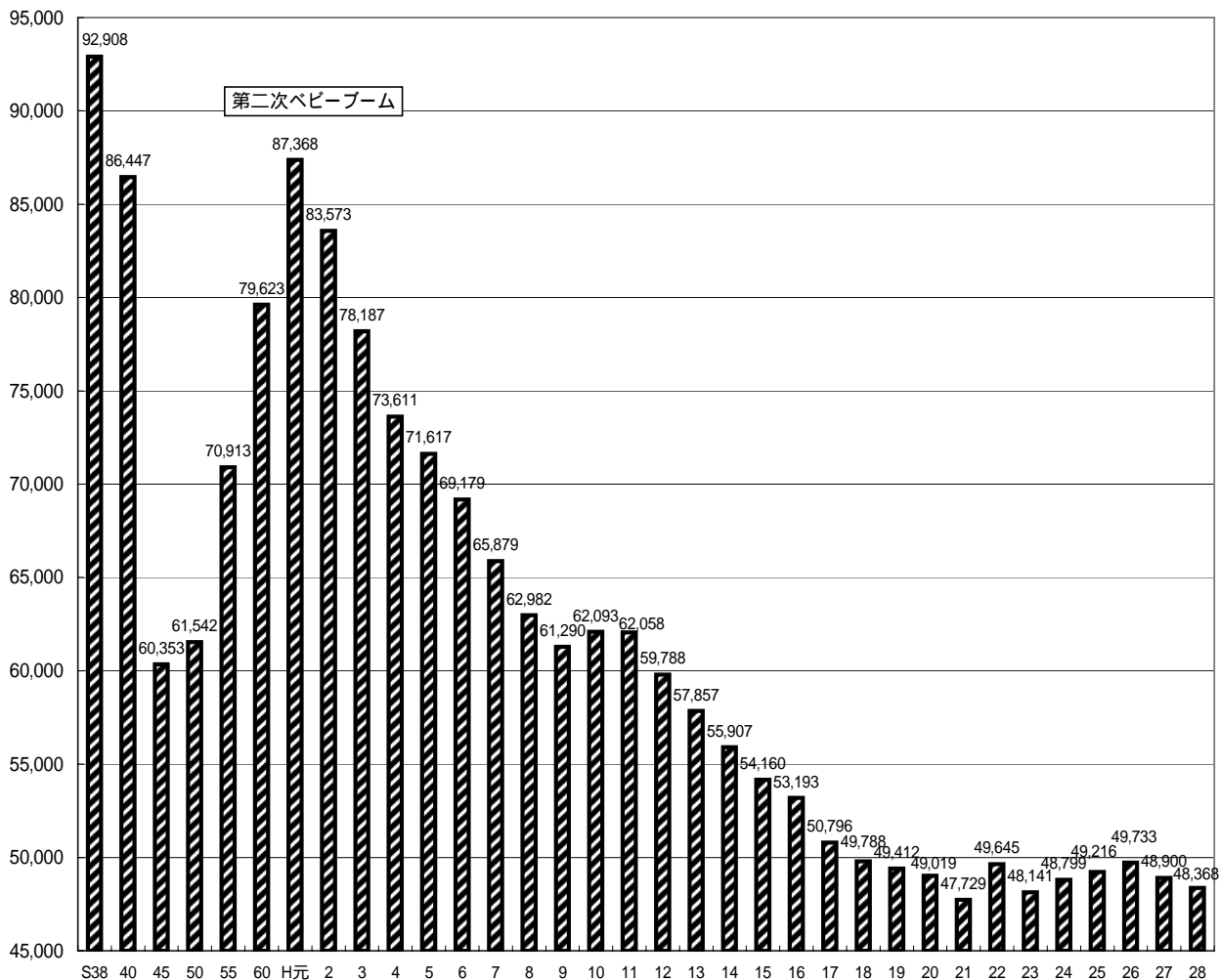


2 国・公立中学校の卒業者の進学率



年度	S42	S45	S48	S51	S54	S57	S60	H元	H3	H5	H7	H9	H11	H13	H15	H17	H19
高等学校進学率	77.7	85.9	92.5	95.2	94.7	94.1	93.7	95.0	95.8	96.3	96.4	96.4	96.8	96.7	97.1	97.2	97.5
県内公立全日制高等学校進学率	49.6	56.7	63.0	67.7	67.7	67.9	67.7	68.1	68.2	68.4	69.4	70.6	71.1	70.8	70.1	69.8	69.7
県内私立高等学校進学率	15.6	17.9	19.4	17.8	17.2	16.8	17.3	16.9	17.4	17.1	16.8	16.0	15.5	15.9	16.6	16.6	16.5

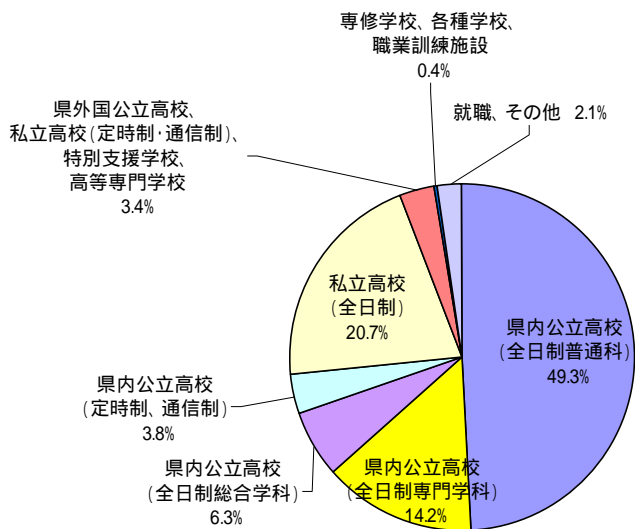
3 国・公立中学校卒業(見込)者数の推移



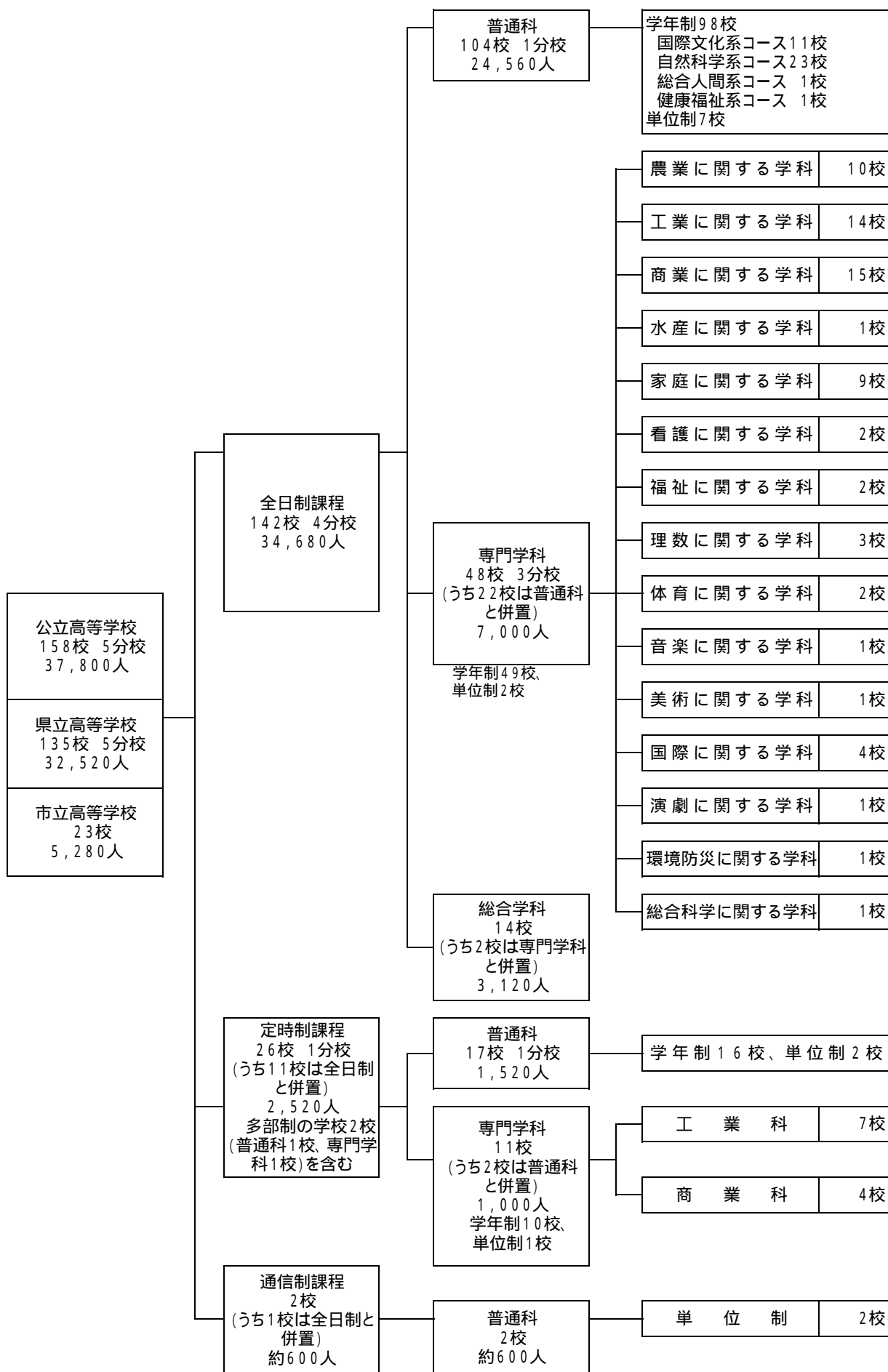
注 平成21年度以降は平成19年5月1日の在籍児童・生徒数から推計した。

4 国・公立中学校平成19年3月卒業者の進路状況

高校進学者 97.5%
 県内公立全日制高校進学者 69.7%

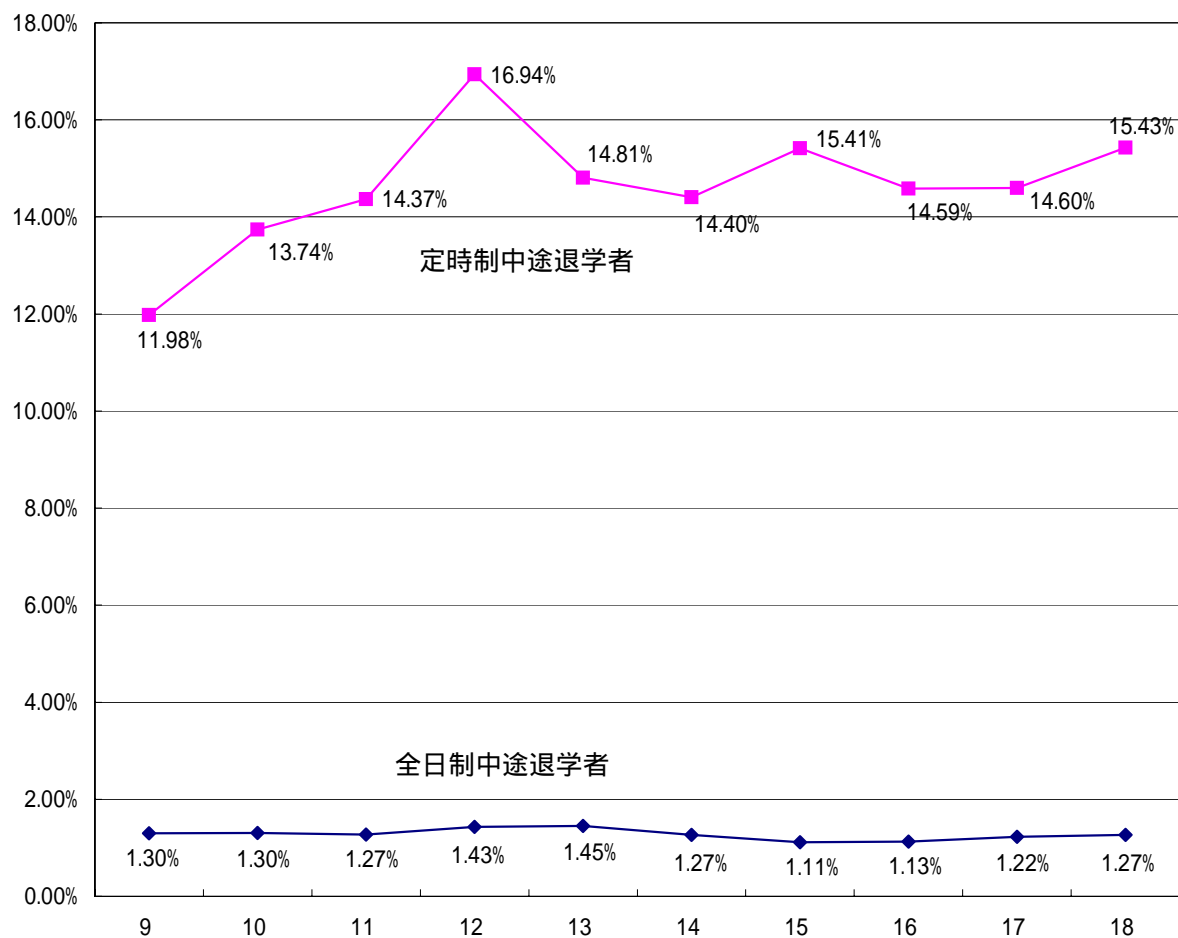


5 公立高等学校の課程・学科別学校数



注) 学校数・学科数及び人数は平成20年度の募集定員による

6 県立高等学校中途退学者数



年度	在籍者数			退学者数					
	全日制	定時制	合計	全日制		定時制		合計	
9	115,065	3,549	118,614	1,494	(1.30%)	425	(11.98%)	1,919	(1.62%)
10	113,507	3,588	117,095	1,479	(1.30%)	493	(13.74%)	1,972	(1.68%)
11	113,720	3,661	117,381	1,446	(1.27%)	526	(14.37%)	1,972	(1.68%)
12	112,883	3,884	116,767	1,616	(1.43%)	658	(16.94%)	2,274	(1.95%)
13	109,692	4,336	114,028	1,591	(1.45%)	642	(14.81%)	2,233	(1.96%)
14	105,348	4,388	109,736	1,333	(1.27%)	632	(14.40%)	1,965	(1.79%)
15	101,407	4,490	105,897	1,130	(1.11%)	692	(15.41%)	1,822	(1.72%)
16	98,248	4,573	102,821	1,108	(1.13%)	667	(14.59%)	1,775	(1.73%)
17	94,690	4,549	99,239	1,159	(1.22%)	664	(14.60%)	1,823	(1.84%)
18	91,832	4,518	96,350	1,163	(1.27%)	697	(15.43%)	1,860	(1.93%)

7 公立全日制高等学校普通科の通学区域及び選抜制度(平成21年度募集分)

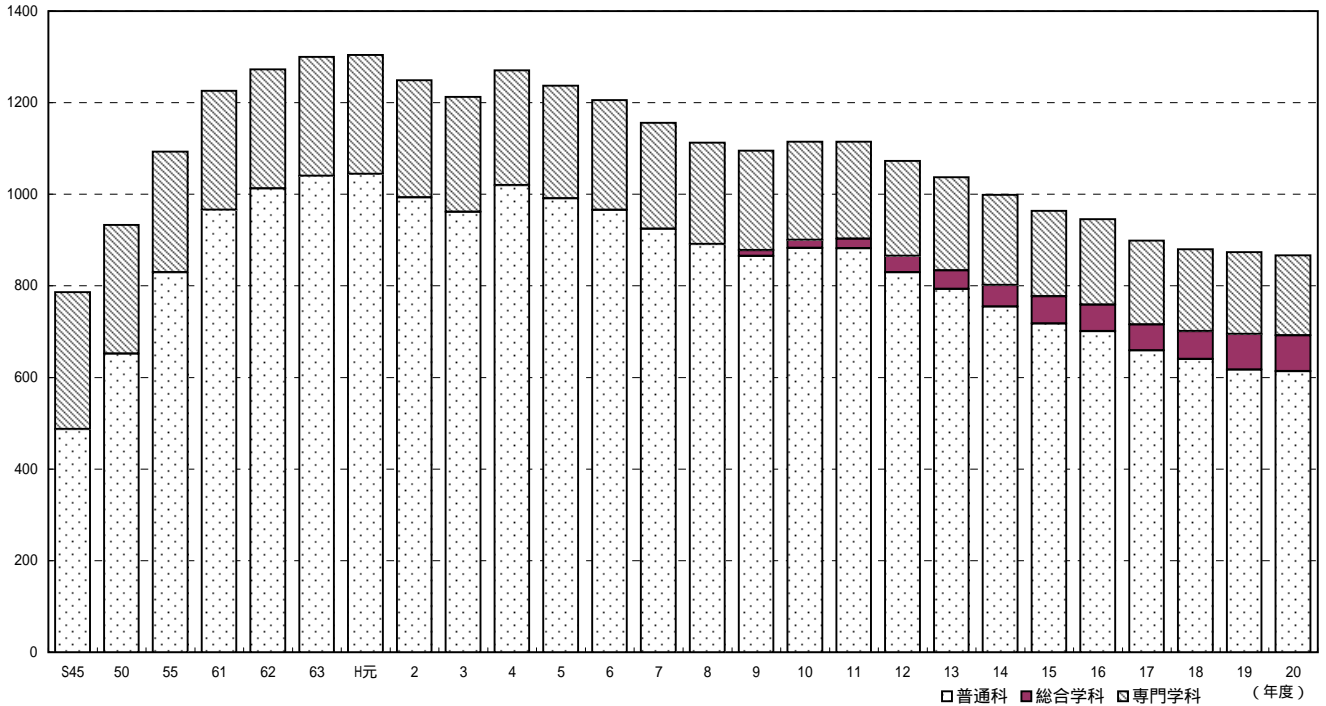
通学区域	学校数 (普通科単位制を含む)	所属区域(自由学区 所属区域の学区の高等学校以外を志望できる区域を除く)	選抜制度	
神戸第一・芦屋	6	東灘区 灘区 中央区 兵庫区のうち神戸生田中及び楠中の区域 芦屋市	単独選抜	
神戸第二	5	兵庫区(神戸第一・芦屋学区の所属区域を除く) 北区 長田区(神戸第三学区の所属区域を除く) 須磨区のうち雲雀丘中の区域		
神戸第三	10	長田区のうち西代中、高取台中及び太田中の区域 須磨区(神戸第二学区の所属区域を除く) 垂水区 西区	複数志願選抜 全日制単位制を除く	
尼崎	7	尼崎市		
西宮	7	西宮市		
宝塚	4	宝塚市	総合選抜	志望校優先率10%
伊丹	7	伊丹市 川西市 川辺郡	複数志願選抜	
丹有	7	三田市 篠山市 丹波市	単独選抜	
明石	5	明石市	複数志願選抜 全日制単位制を除く	
加印	8	加古川市 高砂市 加古郡		
北播	8	西脇市 三木市 小野市 加西市 加東市 多可郡		
姫路・福崎	13	姫路市 神崎郡		
西播	8	相生市 たつの市 赤穂市 宍粟市 揖保郡 赤穂郡 佐用郡	単独選抜	
北但	4	豊岡市 新温泉町 香美町のうち香住区の区域	連携校	連携以外の中学校から6%
南但	3	朝来市 養父市 香美町のうち小代区及び村岡区の区域	方式	連携以外の中学校から5%
淡路	3	洲本市 南あわじ市 淡路市	単独選抜	
<p>単独選抜 : 学校ごとに各校が単独で選抜を行い、合格者を決定する。</p> <p>総合選抜 : 学区内の総募集定員の人数を合格者とし、そのうち、各校の志願者で成績上位の者から順に、志望校優先率によって、それぞれの合格者を決定する。残りの合格者については、居住地等を勘案して、それぞれの学校の合格者を決定する。</p> <p>連携校方式 : 各学校ごとに定められた連携中学校の生徒を対象に合格者を決定することを原則とするが、連携中学校以外の中学校からは6%又は5%以内の比率で合格者を決定することができる。</p> <p>複数志願選抜 : 学区内において2校まで志願することができ、第1志望を優先にして合格者を決定する。また、第1志望、第2志望に合格しなかった場合でも総合得点によっては、希望すればいずれかの公立高等学校に合格することができる。</p>				

8 公立全日制高等学校の入学者選抜方法(平成20年度募集分)

区 分		選抜方法(募集割合)	通学区域	
普通科	国際文化系コース、自然科学系コース、総合人間系コース、健康福祉系コース	推薦入学(100%)	普通科の学区	
	単位制高校	推薦入試(50%以内)	県下全域	
		学力検査(推薦合格者以外)	普通科の学区	
	上記以外	特色選抜(一部の高校で実施。15%以内。ただし40人は越えない) 学力検査(特色選抜実施校は特色選抜合格者以外)	普通科の学区	
専門学科	工業(一部)、商業(一部)、看護、理数、体育、音楽、美術、国際、演劇、環境防災	推薦入学(100%)	県下全域	
	総合科学	推薦入学(62.5%)		
		学力検査(推薦合格者以外)		
	上記以外	農業、工業、水産、家庭、福祉	推薦入学(50%以内) 学力検査(推薦合格者以外)	県立、伊丹市立
				神戸市立、尼崎市立
		商業	推薦入学 学力検査	明石市立
				商業の学区
総合学科		推薦入学(50%以内) 学力検査(推薦合格者以外)	県下全域 総合学科の学区	

9 公立全日制高等学校募集学級数の推移

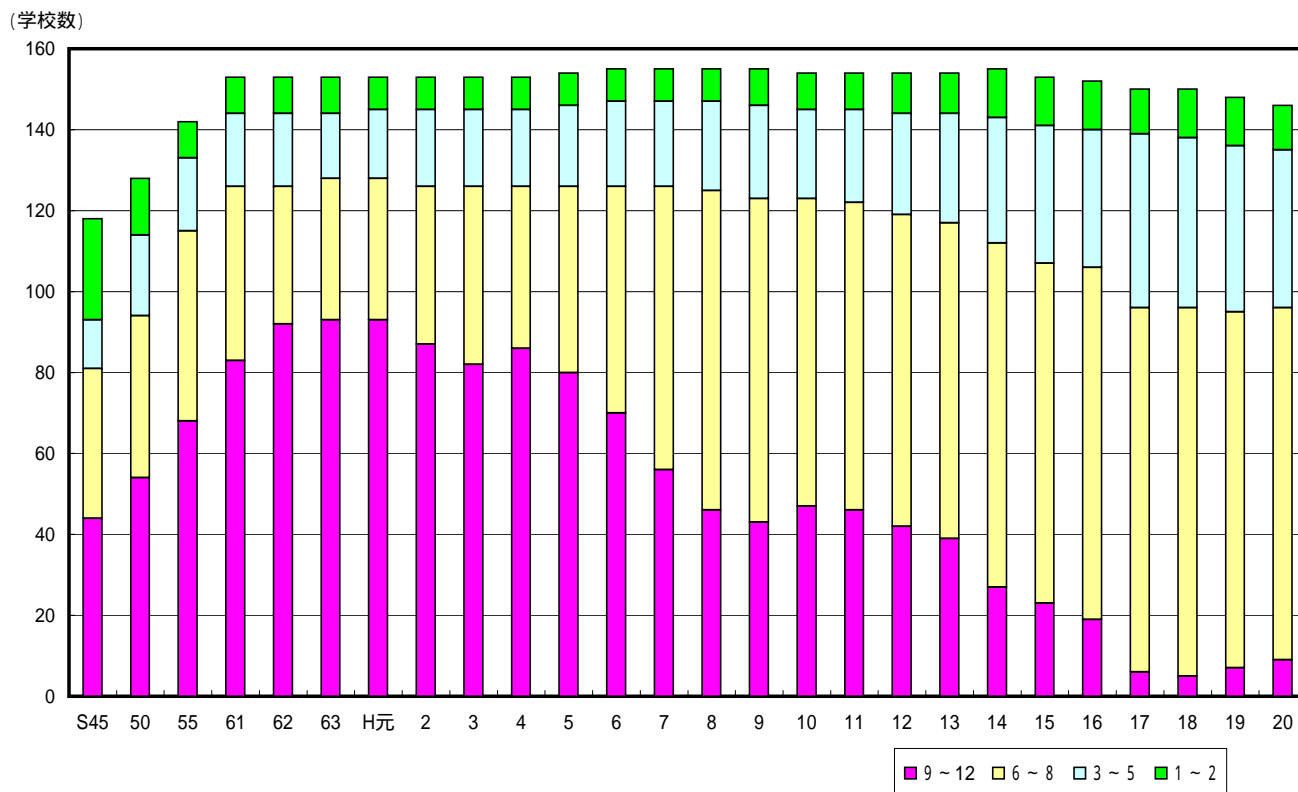
(学級数)



年度	S45	50	55	61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
普通科 (学級) (割合)	487 62.0	652 69.9	830 75.9	966 78.8	1013 79.6	1040 80.0	1044 80.1	993 79.5	962 79.3	1020 80.3	991 80.1	966 80.1	925 80.0	891 80.1	865 79.0	883 79.2	882 79.1	830 77.4	793 76.5	755 75.6	718 74.5	701 74.1	659 73.3	640 72.7	617 70.6	614 70.8		
総合学科															13 1.2	17 1.5	21 1.9	35 3.3	41 4.0	47 4.7	59 6.1	58 6.1	57 6.3	61 6.9	78 8.9	78 9.0		
農業に関する学科	54 6.9	49 5.3	39 3.6	33 2.7	33 2.6	33 2.5	33 2.5	32 2.6	32 2.6	32 2.5	32 2.6	31 2.6	31 2.7	31 2.8	31 2.8	28 2.5	28 2.5	26 2.4	26 2.5	26 2.6	26 2.7	26 2.7	26 2.9	25 2.8	25 2.9	25 2.9		
工業に関する学科	109 13.9	104 11.1	100 9.1	100 8.2	100 7.9	100 7.7	100 7.7	100 8.0	99 8.2	98 7.7	96 8.0	95 7.9	90 7.8	85 7.6	84 7.7	88 7.9	87 7.8	87 8.1	85 8.2	81 8.1	71 7.4	71 7.5	69 7.7	69 7.8	69 7.9	68 7.8		
商業に関する学科	92 11.7	92 9.9	88 8.1	90 7.3	90 7.1	90 6.9	90 6.9	88 7.0	85 7.0	86 6.8	84 6.5	78 6.5	75 6.4	71 6.4	70 5.9	66 5.7	64 5.9	63 5.9	59 5.7	58 5.8	55 5.7	54 5.7	54 5.8	52 5.6	49 5.5	48 5.3		
水産に関する学科	2 0.3	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	
家庭に関する学科	36 4.6	29 3.1	29 2.7	24 2.0	24 1.9	24 1.8	24 1.8	23 1.8	22 1.8	22 1.7	21 1.7	19 1.6	18 1.6	18 1.6	15 1.4	15 1.3	15 1.3	12 1.1	12 1.2	12 1.2	10 1.0	10 1.1	10 1.1	10 1.1	10 1.1	9 1.0		
看護に関する学科	4 0.5	4 0.4	4 0.4	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.3	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	
福祉に関する学科																						2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	
理数に関する学科																						1 0.1	2 0.2	2 0.2	2 0.2	3 0.3	3 0.3	
体育に関する学科	2 0.3	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	3 0.3	
音楽に関する学科				1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1
美術に関する学科				1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1
外国語に関する学科				2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	2 0.2	1 0.1	1 0.1							
国際関係に関する学科				1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	2 0.2	2 0.2	2 0.2	4 0.4	4 0.4	4 0.7	7 0.7	7 0.8	7 0.8	7 0.8	7 0.8	
演劇に関する学科				1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	
環境防災に関する学科																					1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1		
総合科学に関する学科												4 0.3	4 0.3	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.5	4 0.5	4 0.5	
合計	786	933	1093	1226	1273	1300	1304	1249	1213	1271	1237	1206	1156	1113	1095	1115	1115	1073	1037	999	964	946	899	880	874	867		

(注) 端数四捨五入のため、合計が100%にならない場合がある。

10 公立全日制高等学校の募集学級数による学校規模の推移



学級定員	普通・商業・家庭科は45人 その他の学科は40人			普通・商業・家庭・国際文化・演劇・外国語科は45人 (生徒急増地域は47人)、 その他の学科は40人																	急増地域も45人	全学科とも40人定員																
	学級	S45	50	55	61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20											
12	1	2	1	3	7	9	12	6	3	13	5	4							1																			
11	1	7	5	12	22	33	31	18	12	14	18	15	10	2	1	5	5	2																				
10	21	25	35	37	40	33	30	33	26	40	29	22	20	23	22	22	27	19	13	7	2	2	1	1	1	1	1											
9	21	20	27	31	23	18	20	30	41	19	28	29	26	21	20	20	14	21	25	20	21	17	5	4	6	8												
8	23	28	24	26	18	19	18	21	25	24	25	30	38	35	35	38	36	34	24	28	29	30	34	31	27	21												
7	11	6	16	9	9	8	10	12	13	12	16	20	21	29	28	27	29	25	29	34	32	33	34	31	33	35												
6	3	6	7	8	7	8	7	6	6	4	5	6	11	15	17	11	11	18	25	23	23	24	22	29	28	31												
5	4	6	7	9	10	8	8	9	8	9	10	8	8	7	8	7	8	10	11	16	16	15	24	19	23	22												
4	5	8	7	5	4	4	5	5	5	4	4	6	5	8	8	8	10	8	8	6	9	8	9	14	10	10												
3	3	6	4	4	4	4	4	5	6	6	6	7	8	7	7	7	5	7	8	9	9	11	10	9	8	7												
2	11	6	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	4	4	6	6	6	5	5	4	4												
1	14	8	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	7	8	7												
計	校数	118	128	142	153	153	153	153	153	153	154	155	155	155	155	154	154	154	154	155	153	152	150	150	148	146												
	学級数	786	933	1093	1226	1273	1300	1304	1249	1213	1271	1237	1206	1156	1113	1095	1115	1115	1073	1037	999	964	946	899	880	874	867											
学級数の平均		6.66	7.29	7.70	8.01	8.32	8.50	8.52	8.16	7.93	8.31	8.03	7.78	7.46	7.18	7.06	7.24	7.24	6.97	6.73	6.45	6.30	6.22	5.99	5.87	5.91	5.94											

11 平成20年度全日制高等学校の募集学級数による規模別学校一覧

学級	神戸第一・芦屋	神戸第二	神戸第三	尼崎	西宮	宝塚	伊丹	丹有	明石	加印	北播	姫路・福崎	西播	北但	南但	淡路	
10	市科技																
9	市六甲7 イオン				県西宮				明石 明石北 明石西 明石城西 明石清水				龍野				
8	神戸屋影 芦御	兵庫工 神戸鈴蘭台	長田 星陵 伊川谷北	武庫荘総合 市尼崎		宝塚北	県伊丹	有馬 北摂三田	市明石商	小野脇木 加古川西 加古川東 農業							
7	市葺合	兵庫 夢野台	神戸高塚 舞子 須磨東 伊川谷 神戸商業	尼崎北 尼崎小田 県尼崎	鳴尾 市西宮		伊丹西 川西緑台 川西北陵	三田西陵 三田祥雲館 柏原 篠山鳳鳴	明石南	加古川北 高砂南 高砂東 播磨	社	姫路東 姫路西 姫路工業 市節磨 市姫路 市琴丘	赤山 穂崎			淡路三原	
6	東灘	神戸甲北 市神港 市兵庫商	須磨友が丘 北須磨	尼崎稲園	西宮今津 市西宮東	宝塚東	伊丹北 川西明峰 市伊丹	篠山産業		加古川南 松陽 播磨南 東播工業	三木東 三木北 西脇工業	姫路南 姫路節西 姫路商業 福崎	龍野北 相生用 相佐	豊岡 豊岡総合			洲本
5		神戸北	市神戸西 市須磨	尼崎西 尼崎工業 市尼崎東 市尼崎産	西宮南	宝塚西 宝塚				北条 小野工業		姫路別所 網干 香寺 節磨工業	上郡 相生産業 相太子		八鹿	津名 洲本実業	
4					西宮北 西宮甲山		猪名川	氷上		多可			県立大附	石住坂 出香浜	生野		
3	国際										播磨農業 吉川	夢前			和田山 但馬農業	淡路	
2												神崎	伊和	日高	村岡		
1								氷上西 篠山産業東雲(分) 篠山産業丹南(分)				家島	千種			洲本実業東浦(分) 淡路一宮(分)	
本校数	8	8	12	10	8	4	8	9	7	11	12	17	12	6	5	5	
学校数	8	8	12	10	8	4	8	11	7	11	12	17	12	6	5	7	

学校数では分校を含む (分)は分校を表す

1 2 県立全日制高等学校卒業生の大学科別進路状況

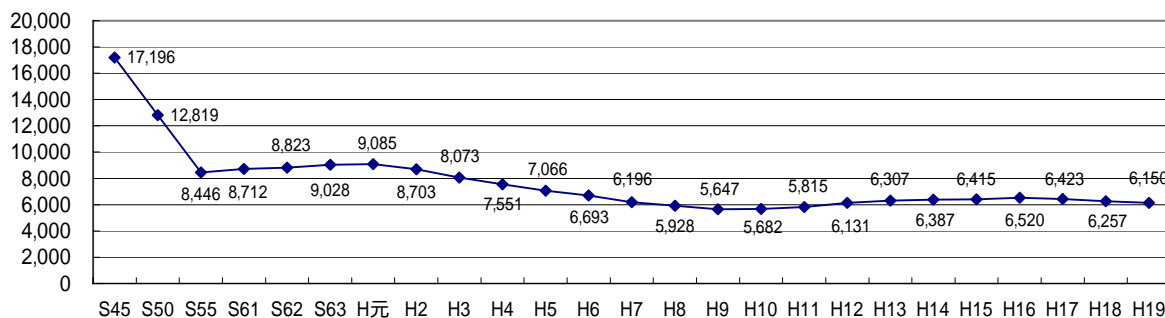
平成19年3月卒業生（下段は平成11年3月卒業生）

学科		生徒数	大学進学者数	専修・各種学校	就職・その他
普通科		23,403	15,451 (66.0)	5,678 (24.3)	2,274 (9.7)
		32,281	20,829 (64.5)	7,987 (24.7)	3,465 (10.7)
内	国際文化系 コース (英語コース)	528	415 (78.6)	83 (15.7)	30 (5.7)
		758	586 (77.3)	102 (13.5)	70 (9.2)
	自然科学系 コース (理数コース)	886	708 (79.9)	160 (18.1)	18 (2.0)
		1,031	765 (74.2)	243 (23.6)	23 (2.2)
専門学科	農業科	874	143 (16.4)	230 (26.3)	501 (57.3)
		1,062	146 (13.7)	261 (24.6)	655 (61.7)
	水産科	47	3 (6.4)	11 (23.4)	33 (70.2)
		50	5 (10.0)	9 (18.0)	36 (72.0)
	工業科	2,136	418 (19.6)	328 (15.4)	1,390 (65.1)
		2,645	481 (18.2)	477 (18.0)	1,687 (63.8)
	商業科	1,212	511 (42.2)	250 (20.6)	451 (37.2)
		1,608	516 (32.1)	332 (20.6)	760 (47.3)
家庭科	440	130 (29.5)	119 (27.0)	191 (43.4)	
	718	205 (28.6)	140 (19.5)	373 (51.9)	
看護科	76	2 (2.6)	72 (94.7)	2 (2.6)	
	141	8 (5.7)	117 (83.0)	16 (11.3)	
特色学科	456	365 (80.0)	60 (13.2)	31 (6.8)	
	194	142 (73.2)	36 (18.6)	16 (8.2)	
小計	5,241	1,572 (30.0)	1,070 (20.4)	2,599 (49.6)	
	6,418	1,503 (23.4)	1,372 (21.4)	3,543 (55.2)	
総合学科		2,196	1,176 (53.6)	589 (26.8)	431 (19.6)
計		30,840	18,199 (59.0)	7,337 (23.8)	5,304 (17.2)
		38,699	22,332 (57.7)	9,359 (24.2)	7,008 (18.1)

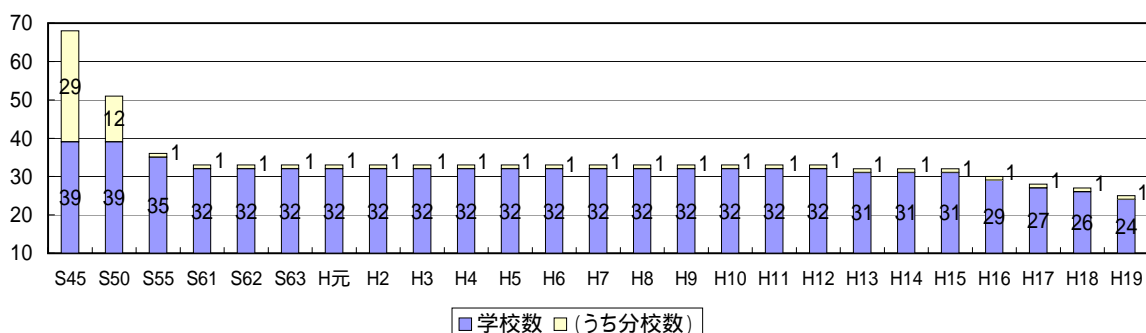
英語コース、理数コースは、平成15年度から国際文化系コース、自然科学系コースに改編

13 公立定時制高等学校の生徒数・学校数の推移等

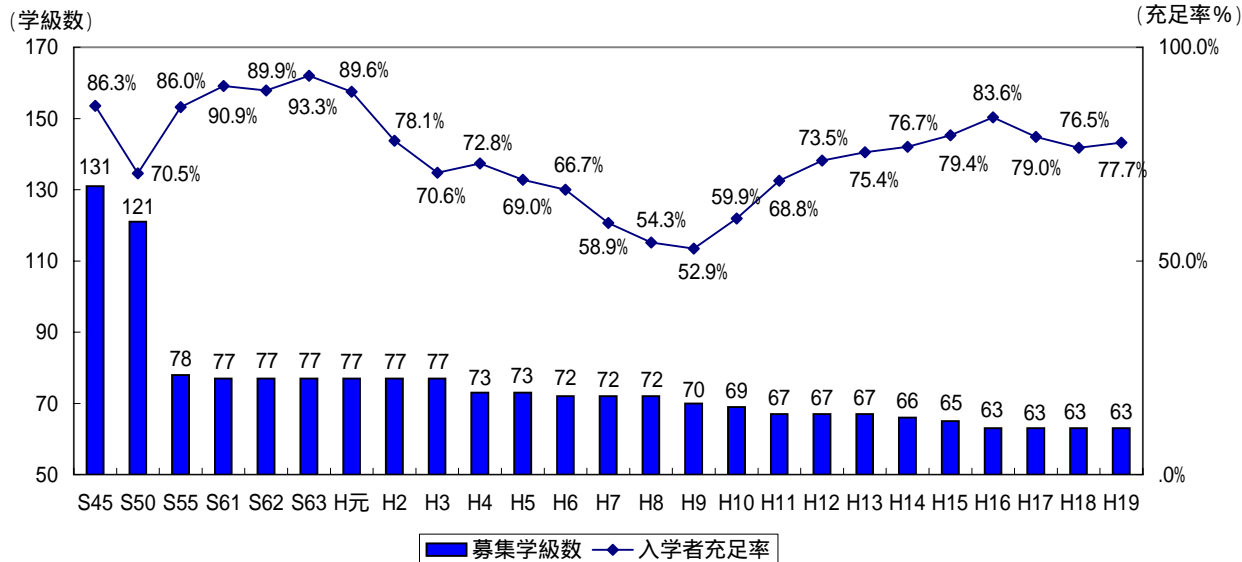
生徒数の推移



学校数の推移



募集学級数、入学者充足率の推移



年次	S45	S50	S55	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	
学校数	39	39	35	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	29	27	26	24
うち分校数	29	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
在籍生徒数	17,196	12,819	8,446	8,712	8,823	9,028	9,085	8,703	8,073	7,551	7,066	6,693	6,196	5,928	5,647	5,682	5,815	6,131	6,307	6,387	6,415	6,520	6,423	6,257	6,150	
募集学級数	131	121	78	77	77	77	77	77	77	73	73	72	72	72	70	69	67	67	67	67	66	65	63	63	63	63
入学者充足率	86.3%	70.5%	86.0%	90.9%	89.9%	93.3%	89.6%	78.1%	70.6%	72.8%	69.0%	66.7%	58.9%	52.9%	59.9%	68.8%	73.5%	75.4%	76.7%	79.4%	83.6%	79.0%	76.5%	77.7%	77.7%	

1 4 学区別高等学校教育改革の推進状況（平成20年度）

7 地域	神戸		阪神		丹有		東播磨		西播磨		但馬		淡路			
	神戸	神戸	阪神南	阪神北（三田）	丹有	丹有	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	但馬				
10 教育事務所	神戸二	神戸三	神戸一・芦屋	尼崎	西宮	宝塚	伊丹	明石	加印	北播	姫路・福崎	西播	北但	南但	淡路	
通学区域	8	1 2	8	1 0	8	4	8	7	7	7	1 1	1 2	6	6	7	
学校数（分校含む。中等教育学校含まない）	5	1 0	6	7	7	4	7	5	8	8	1 3	8	4	4	3	
普通科（単位制含む）	神戸甲北	須磨友が丘		武庫川総合	西宮今津		伊丹北	有馬	加古川南	三木東	香寺	太子	豊阿総合	和田山	淡路	
総合学科																
全日制普通科単位制高校		北須磨	芦屋市・六甲	尼崎福園				三田祥雲館	加古川北		姫路東					
生涯学習社会に対応した単位制高等学校					西宮香風						飾磨工業					
職業に関する学科	工商	商	工	工商	商	商	商	農工商	農工商家	農工商家	工商	農工商家福香	農工商	農工商家		
特色ある専門学科		・環境防災	・国際	・ガイダンス	・音楽	・演劇			・国際人間	・体育	・国際文化	・総合科学				
・多様化			・総合理学	・体育	・ダンス	・演劇			・美術							
普通科以外																
自然科学系コース																
国際文化系コース																
健康福祉系コース																
総合人間系コース																
中高一貫教育			芦屋国際									県立六甲南				
入学者選抜制度	単独選抜	複数次志願	単独選抜	複数次志願	総合選抜	総合選抜	総合選抜	単独選抜	複数次志願	複数次志願	複数次志願	単独選抜	連携校	連携校	単独選抜	
発展的統合	鈴蘭台	鈴蘭台西	市・御影工	武庫社	武庫工業							龍野実業	豊阿南	豊阿実業	三原	志知

15 全日制高等学校における特色ある学校・学科の設置の推移

(1) 新しいタイプの高等学校

区 分	平成6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総合学科 ()は改称前の 学科				神戸甲北 (普) 香 寺 (普・家)	淡 路 (普・農)	和田山 (商)	伊丹北 (普) 有 馬 (普・農)	加古川南 (普)	須磨友が丘 (普)	武庫荘総合 (普と工) 豊岡総合 (普と工・商)			三木東 (普)	西宮今津 (普) 明石南 (普) 太 子 (普)	
全日制単位制 普通科	尼崎福園								北須磨 三田祥雲館	姫路東		県芦屋 市六甲ｲﾝﾀﾞ	加古川比		
全日制単位制 専門学科										国 際 飾磨工業					
生涯学習社会に対 応した単位制高校								西宮香風 (普通科)		飾磨工業 (工業科)					
総合選択制					市六甲ｲﾝﾀﾞ (普通科)										

(2) 特色ある学科等

区 分	昭和54年 以前	昭和55年 ～昭和59年	昭和60年 ～昭和63年	平成元年 ～平成5年	平成6年 ～平成10年	平成11年 ～平成15年	平成16年 ～平成20年
普通科			理数コース(25校) 英語コース(19校) (昭和61年)		総合選択制 (市六甲ｲﾝﾀﾞ)	自然科学系コース(25校) 国際文化系コース(14校) 健康福祉系コース(1校) (平成15年)	総合人間系コース(1校)
専 門 学 科	職業教育を 主とする 学科	情報科学(姫路商)	電子機械(姫路工) 情報(神戸商) 会計(神戸商) 情報技術(兵庫工) 情報・繊維(西脇工) 情報処理(市神港) 生物工学(農業)	福祉(新宮) 水産食品(香住)	福祉(日高) 国際経済 (西宮、小野、 市兵庫商)	人と自然(有馬) 看護(新宮、日高)	国際ｼﾞﾝｽ(洲本実業) 農業科学(佐用) 海洋科学(香住)
	特色ある 専門学科	体育(社)	音楽(西宮) 美術(明石) 国際文化(芦屋南)	演劇(宝塚北) 英語(市蒼合、市琴丘)		総合科学 (姫工大附)	国際(国際、市蒼合) 国際人間(明石西) 国際文化(市琴丘) 環境防災(舞子) ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰ(尼崎小田)